

# きょうと英語フロンティア・キッズ

## NEWS

### 目次

#### 実践交流会(報告)

去る3月13日、本教育センターにて実践交流会が行われました。

#### 事業2年目に向けて

1年目の成果を踏まえ、2年目の課題を挙げてみました。

#### 活動例(ぬり絵)

英語の導入によく使われる「色」を扱った活動です。

#### 新規実施校の先生方へ

活動を効果的に進めていくには指導助手との連携が大切です。

二条城北小学校からは第3・4学年全員を対象とした「ハロークラブ」の他に、全校的な取組の報告がありました。英語担当の先生だけでなく、学級担任の先生も英語活動に参加しておられる様子が紹介されました。

研究課からはニュースNo.7に掲載した年間計画について報告しました。今後もこのような機会を通して本事業がより充実していくように努めてまいります。



お手元に平成9年度研究報告書が届いていることと思います。小学校英語で扱う内容や年間計画案を載せてありますので、是非ご覧ください。

### 事業2年目に向けて

研究課では「きょうと英語フロンティア・キッズ」事業に関連して、ニュースを発行してきましたが、少しでもお役に立

ちましたでしょうか。昨年度のご愛読に厚く御礼申し上げます。

さて、本事業はいよいよ2年目を迎えました。各校さまざまな活動が展開されている中で、いくつかの課題について考えてみたいと思います。

#### クラブ活動

英語クラブは2年目という児童が出てくることでしょう。2年目の児童は指導助手とも顔見知りでしょうし、Yes. / No. / Please. / Thank you. など、いくつかの表現を知っているはずです。だからと言って、2年目のレベルから始めますと、1年目の児童は何もわからなくて、困惑してしまうことでしょう。

とかく指導助手は高度な表現へ進むことに責任を感じがちですので、1年目の児童を中心に活動を進めるよう伝えておくことが大切です。

2年目の児童と1年目の児童が仲良く活動を進められるようにするためには、他のクラブと同様に児童の興味や関心をもとに計画を立てる必要があります。

#### 課外活動

基本的にはクラブ活動と同じですが、2クラス編成で実施される学校もあるでしょうから、その場合は1年目のクラスと2年目のクラスを作ることができます。

2年目のクラスだからと言って、高度な内容を目指すよりも、児童が自分の英語に自信を持てるようにすることのほうが大切です。そのためには、児童の英語を訂正しすぎないようにする必要があります。

### 実践交流会(報告)

昨年度「きょうと英語フロンティア・キッズ」実践交流会では次のような報告がありました。

まず、金閣小学校からは第5・6学年全員を対象とした英語活動の報告がありました。名刹の近くという地域の特色を生かし、児童が校区に出て、実際に観光客に英語で話している様子などがビデオで紹介されました。

## 学校裁量

学年や学級全員を対象に英語活動を実施されている学校では、1年目と同じような活動をくり返すのではなく、新しい活動をどんどん取り入れてください。児童が今までに慣れ親しんでいる表現にプラス・アルファを取り入れていくことが、活動の幅を広げるコツです。

例えば、“Stand up.”や“Sit down.”の次には、“Stand in a line.”(一列に並びなさい)や“Sit down on the floor.”(床に座りなさい)のように、少しずつ長い表現を取り入れていきます。経験の浅い指導助手は児童によく通じる指示ばかり使いがちですから、意識的に長い指示を使うように打合わせをしておく必要があります。

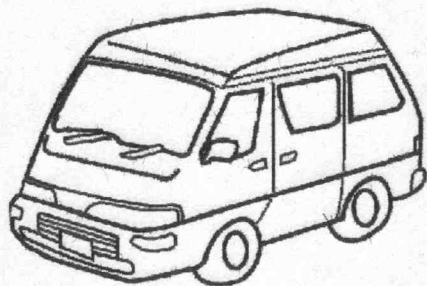
## 活動例(ぬり絵)

今の児童は、色を表わす英語を驚くほどよく知っています。しかし、残念なことに、それらの英語は全部カタカナの音に置き換えられています。

おそらく、指導助手は児童の発音を訂正しようとするでしょう。ところが、これはそう簡単に直せるものではありません。ある小学校の指導助手が書いたメモ(授業記録)には、次のような発音の誤りが指摘されていました。

black → bu-ra-kku

blue → bu-ru



意見の分かれるところですが、研究課では、発音を訂正しすぎないほうがよいと考えています。いくら小学生は音

の習得に優位性が認められると言っても、一度や二度聞いただけでLやRを正しく発音させようとするのは無理です。最初のうちは、英語の音と日本語の音は違うのだと分かればよいと思います。

添付資料は自動車のぬり絵で、自分の好きな色を塗るように作ってあります。児童が色を塗っている間、指導助手は机間巡視をして、児童に質問しましょう。1年目の児童は色を言うだけ、2年目の児童は“I like …”で答える、というようにしてもよいでしょう。

## 新規実施校の先生方へ

平成10年度から英語活動を実施される学校の方々に、指導助手との連携について述べたいと思います。

### 活動時間

指導助手には1回60分の約束で来ていただくようにするのがよいでしょう。60分とするのは指導助手との打合わせの時間を確保するためです。だいたいの次のような内訳になっている場合が多いようです。

活動の確認 5分

児童との活動 45分

次の打合わせ 10分

毎月初めには必ず予定表を用意し、英語活動のある日に印をつけて手渡ししましょう。学期初めに活動計画を渡しておいて、毎回、次の活動がわかるように打合わせをしておくのが能率的です。

### 役割分担

主な仕事は次のようになるでしょう。このうち、どれをだれが分担するのか決めておかねばなりません。

①活動計画の立案

②教材・教具の作成

③出席確認

④活動の支援(T.T.など)

⑤下校指導

気をつけたいのは、児童を指導助手に任せっきりにしないことです。必ず、学校の担当者が一緒に付くようにします。普通、指導助手にお願いするのは④だけになるでしょう。

### 呼び名

指導助手の中には児童を英語名で呼びたがる人がいます。これは意味の無いことなので、やめてもらいましょう。

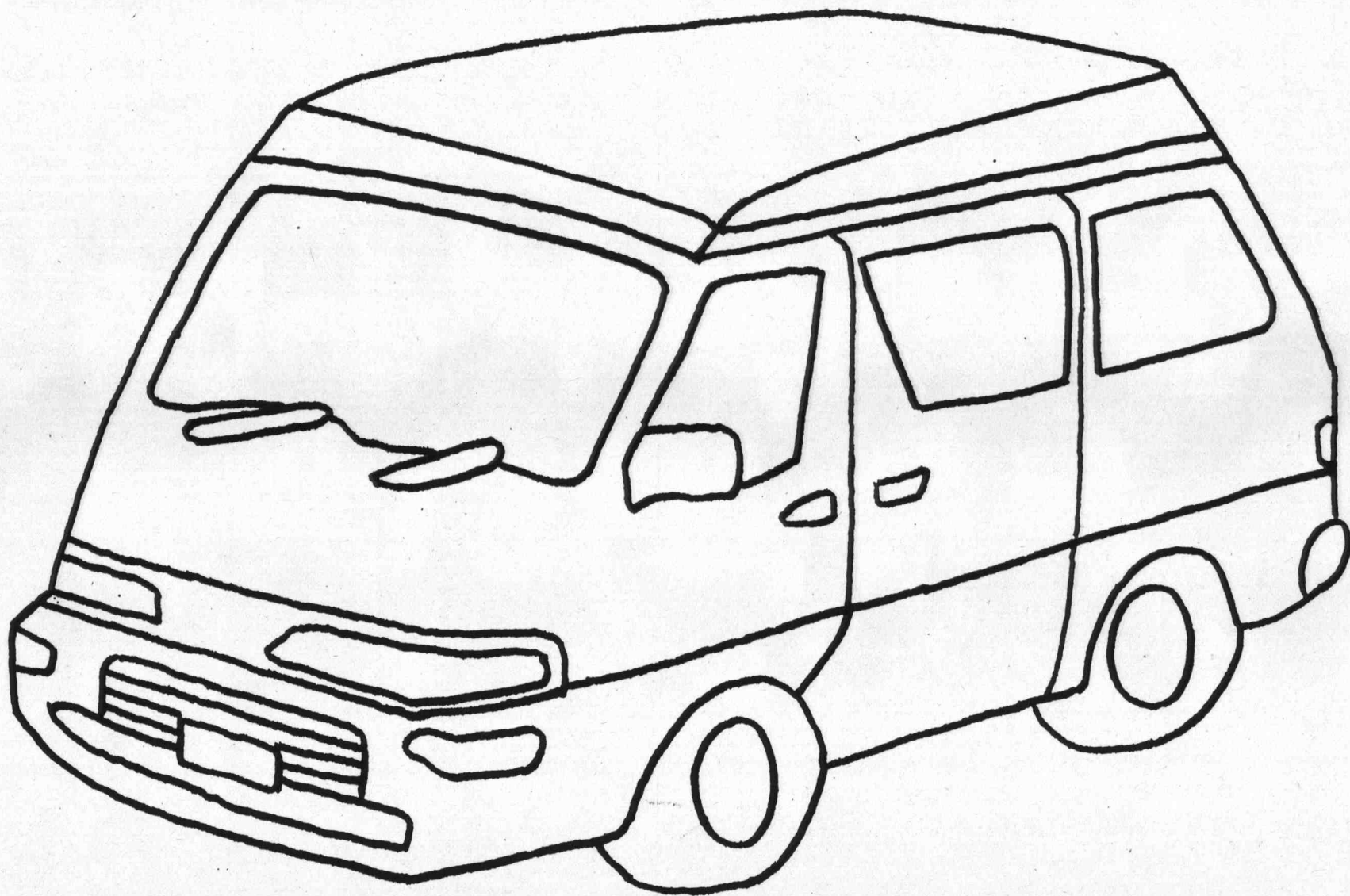
また、自分のことを「マリーと呼んで」とか、「ミスターなんてやめてください」という人もいますが、児童にはきちんと呼ぶようにさせたいものです。小学校では、Paul sensei(ポール先生)とか、Tina sensei(ティナ先生)のようにファースト・ネームに先生をつけて呼ぶ場合が多いようです。

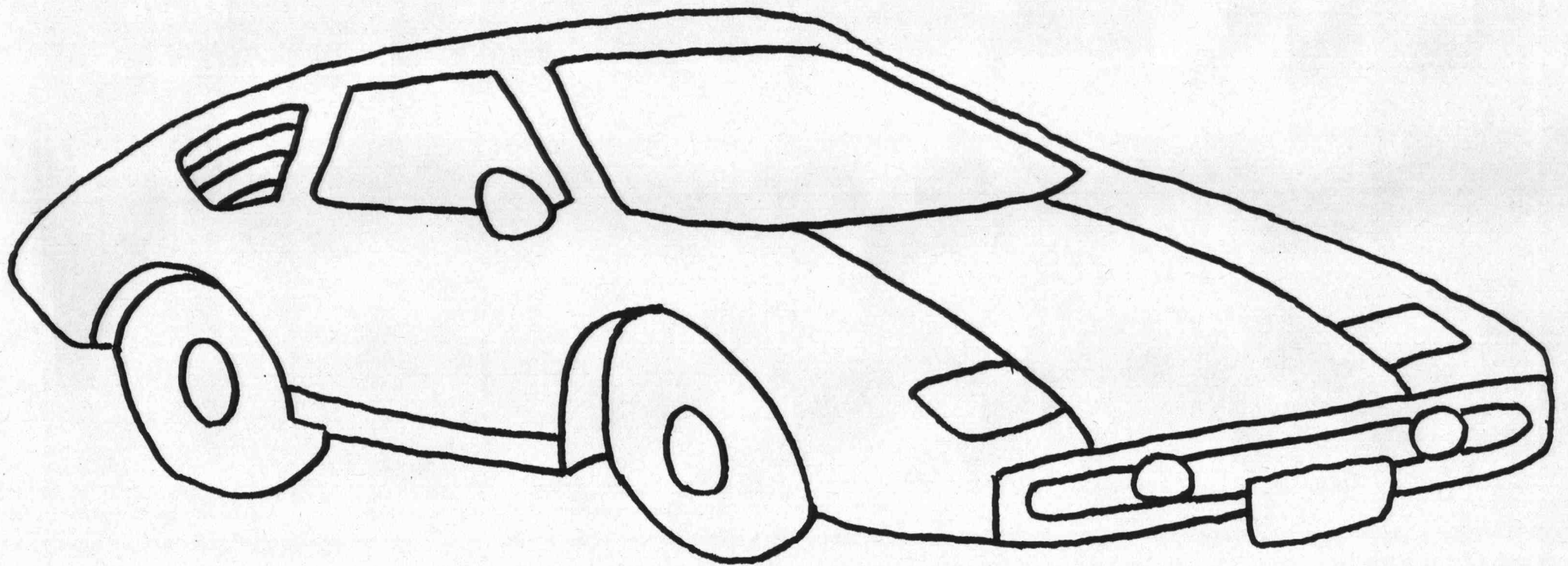
### 児童への接し方

指導助手で教職経験のある方は少ないようで、児童にどのように接すればよいのか分からない人もあるようです。

つい「1年間だけだから、まあいいだろう」と相手におもねってしまいがちですが、それが児童にとって良い結果を生むはずがありません。教室でガムを噛んだり、給食配膳台に座ったりするのは、絶対にやめてもらいましょう。

なんだか禁止事項が多いような感じになってしまいました。でも、指導助手は外国人である前に、ひとりの立派な大人ですから、お互いに教わる人が多いものです。ある小学校の先生が「子供たちよりも、私のほうがよく英語を教えてもらったみたい」と言うと、指導助手は「僕も先生から教える楽しさを教わりました」と御礼を言ったそうです。





きょうと英語フロンティアキッズNEWS

# まよと英語フロンティア・キッズ NEWS

## 目次

### 小学校英語コース

金曜英語講座に小学校コースが  
新設されます。

### 第1回の内容は？

#### 1. 目標や計画の立て方

児童の自発的な発話をめざした  
英語活動を進めましょう。

#### 2. 絵カードの簡単な作り方

絵を描くのが苦手な方にも簡単  
に作れる方法があります。

#### 3. 指導助手との打合わせ

勇気を出して英語で話しかけて  
みましょう。

### 英語教材の貸し出し

4月から英語教材（図書）の貸し  
出しを開始しております。

### ALTってだれのこと？

中学や高校の先生がよく言われ  
るALTってだれのことですか？

## 小学校英語コース

皆様おなじみの金曜英語講座  
に本年度から小学校英語コース  
が新設されます。今月22日から  
A・Bクラス同じ内容でそれぞれ  
隔週（各5回ずつ）に実施します

主に教材作成と指導法につい  
ての実技を交えた研修です。都  
合により受講できない方もおられ  
ると思いますので、予定しており  
ます研修内容につきましては、こ  
のニュースでお知らせいたしま  
す。第1回は次のとおりですので、  
今後の活動の参考にしてくださ  
い。

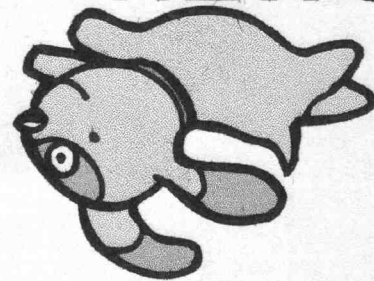
## 第1回の内容は？

### 1. 目標や計画の立て方

小学校では、児童が自発的に英語を  
話せるように活動を進めることが大切で  
す。指導助手のお手本を復唱するだけ  
では、「英語に慣れ親しむ」とは言えな  
いでしょう。

ある小学校では、担任の先生が児童  
ひとりずつの写真を撮って、指導助手  
に手渡したそうです。指導助手はその  
写真を教材提示装置で教室のテレビ  
に映して、名簿を見ながら当てずっぽ  
うで児童の名前を呼びました。最初、  
児童は「ちがう」とか「それは〇〇さん」  
とか言っていたのですが、やがて名前  
が間違っている時は「No!」当たった時  
には「Yes!」と英語で答えるようになっ  
たそうです。

これと似たものに、お店屋さんごっ  
こで児童が「Please.」を言い忘れたら、  
品物を受け取れない、という活動があり  
ます。



また、絵カードをわざと上下逆さまに  
見せたり、小さな服を無理に着ようとす  
る格好をして見せたりして、児童の自  
発的な発話を促そうとする指導助手も  
います。

英単語の意味を日本語で説明する  
のではなく、前記の例のように、その場  
の様子や話し手の表情・動作を通して  
児童に理解させることが大切です。つ  
まり、決められた言い方を覚えてから使  
うのではなく、状況に応じた表現を実  
際に使いながら、英語に慣れ親しむよ  
うにすることが基本となります。

### 発話から見た目標（例）

児童の発話は「Yes.」や「Stop.」な  
どの単語による表現から始まり、やがて  
「Yes, please.」や「Stop here.」のよ  
うな2～3語の表現へと進んでいくことが  
自然な流れです。小学校の場合、目  
標となる児童の発話段階は次のように  
設定されます。

- ・単語
- ・2～3語
- ・フレーズ
- ・文（主語と述語の整った言い方）

研究課が行った低学年での実践で  
は2～3語の発話が出るようになるまで  
に、約20回の活動が必要でした。各校  
の英語活動の中には、「慣れ親しむ」

の範囲を超えた難しすぎる目標があるように思われてなりません。

### 年間の活動計画(例)

1年目の活動目標は、単語による表現ができるようにすることが適当でしょう。したがって、年間の活動計画はこの範囲を超えないように留意する必要があります。(ただし、“You're welcome.”や“Thank you very much.”のような常用表現は扱ってもよいでしょう。)

具体的には、研究紀要(平成9年度)を参考にいただければと思います。

### 話すようになるまで

児童が英語を話すようになるまでは、段階を踏まえた活動計画が必要です。最初からいきなり、皆の前で英語を話すのは心理的な抵抗感があるものです。初めのうちは、指さしたり肯いたり、動作で応答するようにしましょう。これも、まずグループや班でそろって応答することから始め、慣れてきたらひとりで応答できるようにします。

中には、正確に英語を聞き取っているのに、なかなか自分から話そうとしない児童もいます。こういう児童には、話さないからと言って叱ったりしてはなりません。英語を話す機会を与えながら、気長に待たなければならないと思います。

### 2.絵カードの簡単な作り方

小学校の英語活動では、絵カードが必需品ですが、市販のカット集(コピーして使う形式の本)を拡大するのは意外と手間がかかるものです。研究課ではコンピュータのクリップアート集(著作権フリーのもの)を利用しています。

作り方のコツは、裏に粘着剤のついた紙ラベルを買ってきて、直接印字

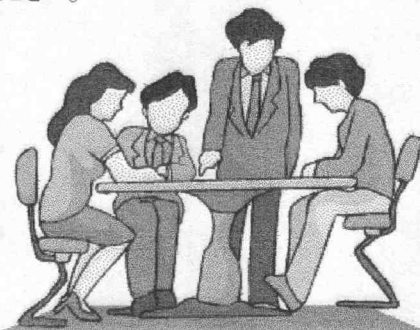
することです。裏紙をはがして、ボール紙に貼るだけでも完成です。(今回はこちらで用意した材料を使って、カードを作っていただきます。)

### 3.指導助手との打合わせ

中学校ではもう10年以上もALTとのティーム・ティーチングが行われていますが、まず皆様に、ティーム・ティーチングの実際を経験していただきたいと思います。

#### 指導助手との打合わせ

ティーム・ティーチングを進めるためには、事前にどのような打合わせをすればよいのでしょうか。打合わせの様子を演じてみますので、参考にしてください。



#### 実技練習

では、実際に指導助手に英語で話しかけてみましょう。練習の課題は、自分が作成した指導案(今回は研究課が用意したもの)にしたがって活動を進めて欲しい、と指導助手に伝えることです。

ここでは、昨年までは指導助手が考えた計画で活動を進めてきましたが、今年からはこちらの計画通りに進めてもらいたいと交渉する場面を想定します。実際には各校のさまざまな条件がありましようし、指導助手の意向も無視することはできません。しかし、このような打合わせを行う時は、前もって英語でどう話せばよいのか考えておくことが有効です。

今回の実技をヒントに、より積極的に指導助手に働きかけていただければ、それは必ず児童へ還元されていくものと信じています。

## 英語教材の貸し出し

4月から小学校英語に関する教材(図書)の貸し出しを開始しました。欧米で出版されたESL教材を中心に約100冊あります。ESL教材とは、母国語としての教科書ではなく、英語を第2言語(または外国語)として学習する児童のために作られた図書です。児童用だけでなく、教師用も多く揃えてありますので、どうぞご利用ください。

なお、貸し出しにつきましては他の図書と同様、1人2冊以内、2週間までとなっております。

### ALTってだれのこと?

Assistant Language Teacher(外国語指導助手)の略で、そのうち英語教育に携わる人をAET(Assistant English Teacher)と呼ぶ場合もありますが、特に区別しないことが多いようです。現在、京都市には中学校・高等学校合わせて24名のALTが英語の指導にあたっています。

小学校の「指導助手」を英訳すれば“Part-time ALT”となります。もっと簡単な言い方がないか考えていますが、これが一番明確に通じるようです。

# きょうと英語フロンティア・キッズ NEWS

## 金曜英語第2回の内容から

### 1. 動作や表情による活動

小学校の英語活動はまず聞くことから始まります。ところが、児童が聞いたことを本当に理解しているのかどうか分からないと、活動は一方通行になってしまいます。例えば、テープを聞いているだけ、ビデオを見ているだけ、という受動的な活動になってしまいます。

そこで、児童が英語を話せない間は動作や表情で応答すればよいのではないか、という指導理論が生まれてきたのです。つまり、もともとは聞き取ったことを積極的に体で表現する、そういう指導法として開発されたものです。

#### 聞くことに焦点をあてる期間の必要性

これはみなさんが自身で試してみることができます。全く学習したことの無い言語のカセットテープを買ってきて、いきなり会話文を発音してみましょう。おそらく、うまく舌が回らないか、カタカナを棒読みするような感じになるか、どちらかになってしまうことでしょう。

早い人でも数回は繰り返して聞かないと、テープの音声をまねることが出来なideでしょう。聞くことに焦点をあてた期間の大切さが分かります。さらに、'70年代以降の研究では、話さない

期間を設けたほうが、その後の話す能力の育成に有利であるとされています。最初の数時間は肯いたり指さしたりしながら、聞くことを重視した活動を中心に進めるのもひとつの方法だと思います。

#### 指導上の留意点

誤解されがちなのは、児童を英語に正しく反応させなければならないと考えてしまうことです。動作や表情で応答するというのは必ずしも受動的な活動ではありません。ドアを指さしたりノートを開いたりするのでは、児童はやがて「やらされている」という気持ちになってしまうことも考えられます。次の例のように自然なコミュニケーションの中に動作や表情を取り入れるようにしたいものです。

ある時、正解は「3」なのに、数人の児童は「4」だと答えました。指導助手は困ったような表情を見せました。さらに困ったことに、しばらくすると誤答である「4」が多数派になってしまいました。

指導助手は「4」を指さしながら、児童に何度も「OK?」を繰り返しました。大多数の児童は勝ち誇ったように「OK!」と肯いています。

続きは省かせていただきますが、この例のように児童と指導助手が互いに相手の動作や表情を読み取りながら活動を進めるのがよいと考えます。指

導助手もいっしょに児童の応答に対応して、指示を変化させることが大切です。

## 2. 海外で出版された教材

かつて国内では公立小学校での英語教育を想定したテキストが作られたことはないようです。

そこで、昨年度、研究課が海外のテキストを調べたところ、身の回りの人たちが英語を話すことが前提になっていたりするため、そのままで使えるものは見つかりませんでした。しかし、海外の英語教材には学ぶべき点があります。まず、現在形または現在進行形が重視され、それらの表現がたいへん豊富であること。次に、多くの場合、student book と workbook が別冊になっており、それぞれ、一つのまとまった書物として使いやすいこと。これらの他にも見習うべき点があるように思われます。

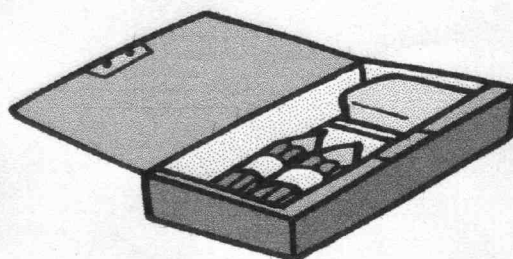
## 3. 教室での基本的な指示

ゲームをする時や話を聞く時に、「筆箱をしまいなさい」「机を向かい合わせにしなさい」など、児童への共通した指示があります。英語活動において基本的な指示を英語で行うことは、英語を実際の伝達のために使うという大きな意義があります。

最初のうちは自信がなくて、不安な児童もいるでしょうから、全員で応答するほうが恐くないと思います。小学校では、全員→グループ→個人の順で応答できるようにするとよいでしょう。

次にグループへの指示が伝わるようにします。「1班は手を挙げて」「3

班は座りなさい」のように言います。その時注意しなければならないのは、児童は英語活動でのグループをしっかりと覚えているかということです。学級単位での活動ですと、ふだんと同じグループでしょうが、課外活動やクラブ活動の場合、週に1回しか顔を合わせませんから、その点を配慮せねばなりません。



### フォニックスって何？

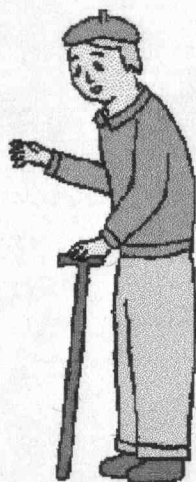
フォニックス(Phonics)は英語指導法ののひとつで、単語の読み(発音)を文字との関係において指導するものです。例えば、oo=[u] または oo=[u:] という関係を知っていれば、今思い付くだけでも、room, foot, tooth, food, spoon, pool, choose, soon, look, book, cook, moon, wool, など(順不同)の単語が読めることになります。

これまで小学校ではアルファベットを算数の記号や国語のローマ字として扱ってきましたが、今後、英語の音声に加わることを考えますと、それらがバラバラのままでよいとは考えられません。研究課では、文字と音声の結びつきについて、中学校との系統的な指導の在り方(前倒しではない)を今年度のテーマのひとつとしています。

# きょうと英語フロンティア・キッズ NEWS

## 金曜英語第3回の内容から

市販のクリップアート集はたいへん便利ですが、思うような絵柄が見つからないこともよくあります。そこで、研究課では会話場面を中心に小学校の英語活動に必要な絵カードを作成しています。下の絵(縮小)

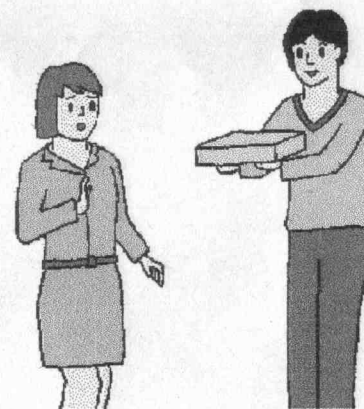


色を塗ったものです。コンピュータを使うことによって画質を劣化させることなく複製が可能になりました。絵を収録した

ディスクをご希望の方は研究課までお電話ください。各校での英語活動に活用していただければと考えています。(残部僅少につき、お早めをお願いします。)

さて、ある児童が左の絵を見て「いないいないばあ、って英語でどう言うの」と担任に質問したとします。このような時は、すぐに peekaboo という単語を与えるよりも、児童が指導助手に質問できるように支援していくことが効果的です。例えば、児童と一緒に指導助手のところへ行って “What do you say *Inai-inai-ba* in English?” と尋ねながら動作をするとよいでしょう。あるいは、「“In English?” って聞いてごらん」と児童に質問の言い方を教えるのもよいでしょう。つまり、絵カードは単語を教える道具として使うのではなく、コミュニケーションの手助けとして使ったほうがよいと考えています。

講座の内容を少し補足しておきたいと思います。次の絵の場合も、児童に絵を見せ、“No, thank you.”と教えるのではなく、実際に絵と同じことを行うと効果的です。例えば、空き箱を3～5つ用意して1つだけ何かを入れておきます。指導助手は “This is for you.”と言いながら児童に箱を差し



出します。児童は空き箱だと思えば “No, thank you.”と、箱に何かが入っていると思うなら “Thank

you.”と、答えるようにします。

一方、指導助手は児童の返事が “No, thank you.”の時には、別の箱に取り替えて差し出します。いわゆる当て物ゲームの

ような活動が考えられます。

この例の場合、ビックリ箱を使ったり、箱の中に「あたり」と「はずれ」を書いておいたり、いろいろな工夫が考えられますが、いずれにしても最初から“No, thank you.”の言い方を教えてしまうのではなく、ゲームや活動を進める過程で“No, thank you.”という伝達を実際に行うことが大切です。絵カードは“No, thank you.”という英語の音声を「いいえ、けっこうです」という意味理解と結び付けることができない場合の手助けとして使うとよいでしょう。

## 金曜英語第4回の内容から

小学校英語は児童に文法や単語の知識等を教えようとするものではありませんが、指導者は英語の文字や音声について知っておく必要があるでしょう。

まず、文字については児童の身の回りにいろいろな書体があふれていることに目を

向けたいものです。例えば、大文字の“I”と小文字の“i”のように区別しにくい書体が少なくありません。また、“a”や“g”のようにローマ字で習うのとずいぶん違った書体をよく見かけます。英語活動では、Kyotoや Kamogawa のような地名、また、児童の名前をローマ字で示す時は、児童が習ったものと同じ書体がよいでしょう。ワープロやコンピュータで使われている書体は、ほとんどの場合、児童が習ったものと異なりますので、特に気を付ける必要があります。

### ＜書体の例＞

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

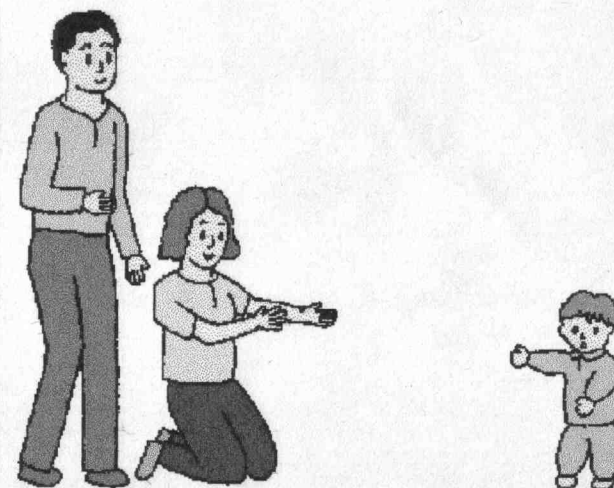
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

また、音声については、アルファベットをカタカナ読み（第5・6学年算数など）

するだけでは英語の音声に慣れ親しんだことにはなりません。単語の綴りを教えるのではなく、文字の名前として、アルファベットの英語読みを取り入れた活動ができればよいと思います。講座ではその一例として、Carolyn Grahamの“The Alphabet Song”を紹介しました。

この歌は、アルファベットの初めのほうばかり反復になっているのが難点ですが、早口言葉のような部分がないので、アルファベットの音に親しむには適した教材だと言えます。



# きょうと英語フロンティア・キッズ NEWS

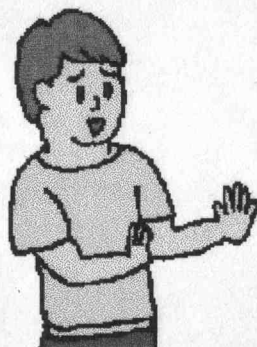
## 金曜英語小学校コースまとめ

5月からスタートしました金曜英語講座の「小学校英語コース」は毎回40名をこえる(A・Bコース計)受講者が参加し、好評のうちに予定の全5回を終えることができました。最後まで熱心に参加していただきありがとうございました。

今回の金曜英語小学校英語コースを通して、意欲的な先生がたくさんおられ、みなさんが、それぞれの学校で、がんばっておられることが、肌で感じることができました。当初「参加者が減っていったら」と心配していた講師担当陣も、「これからも教材づくりや資料提供など、みなさんのニーズにこたえていけるように」とあらためて、自分達の役割の大きさを認識しているところでもあります。

受講者の皆さんから大変貴重なご意見を頂戴しました。特に用紙の節約・リサイクルにつきましては、絵カードの台紙を古いボール紙に変えるなどして実行しております。

また、このニュースにつきましても、「もっと、教材をのせてほしい」というご要望もありました。今後とも皆さんのご意見を生かしながら、活用していただけるニュースをつくっていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 金曜英語第5回の内容から

第5回は迷路遊びと宝さがしという2つの活動例を紹介しました。以下の説明は活動の性質上、研修当日の内容と少し異なる点がありますが、ご了承ください。

### 迷路遊び

児童用に迷路のプリントを用意しておきます。迷路は児童が描いたものでもよいでしょう。

掲示用の迷路を作成する方法は、次のようにいくつかあります。

- 方法① 拡大コピーをつなぎ合わせる。
- 方法② 原版を透明シートにコピーして、模造紙に投影して線をなぞる。
- 方法③ 原版を透明シートにコピーして、ホワイトボードに投影する。

それぞれ一長一短ありますが、お勧めは③の方法です。準備が最も簡単なうえ、ホワイトボードをスクリーンがわりに使えますので、ペンで自由に板書ができるだけでなく、OHPシートも汚れません。地図や図表を提示する時にも便利ですので、このテクニックは、ぜひ一度お試しください。（短所はホワイトボードとOHPが必要なことです。）

さて、児童に迷路のプリントを配ります。いきなり解き始める児童もいるでしょうから、“Wait.”や“Not now.”を理解させるようにします。

迷路の進み具合を見て、掲示用の迷路を黒板またはホワイトボードに掲示します。指導助手は経路を描きながら、Up/Down, Right/Left, を言います。少し進んだら、“Right? Left?” “Up or down?” などの発問をしましょう。

この活動は上下左右の表現を理解させることを中心に考えたものです。方眼黒板を

使って磁石で「はさみ将棋」をするという活動もできると思います。

### 宝さがし

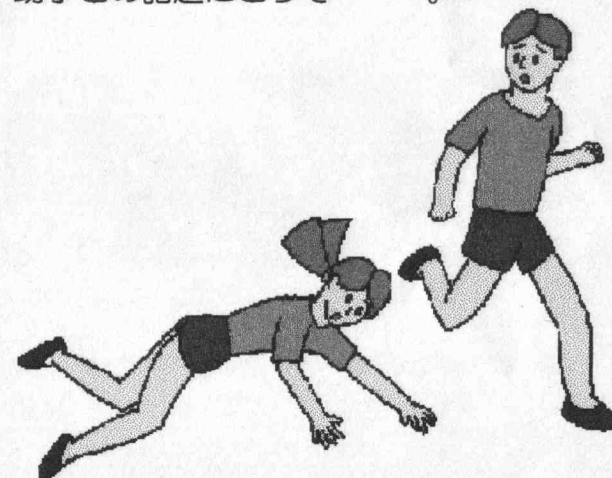
研修では建物の3階だけに隠したので、少しつまらなかったかもしれません。学校には隠し場所がたくさんあると思いますから、グループで探しに行くようにすると楽しいでしょう。

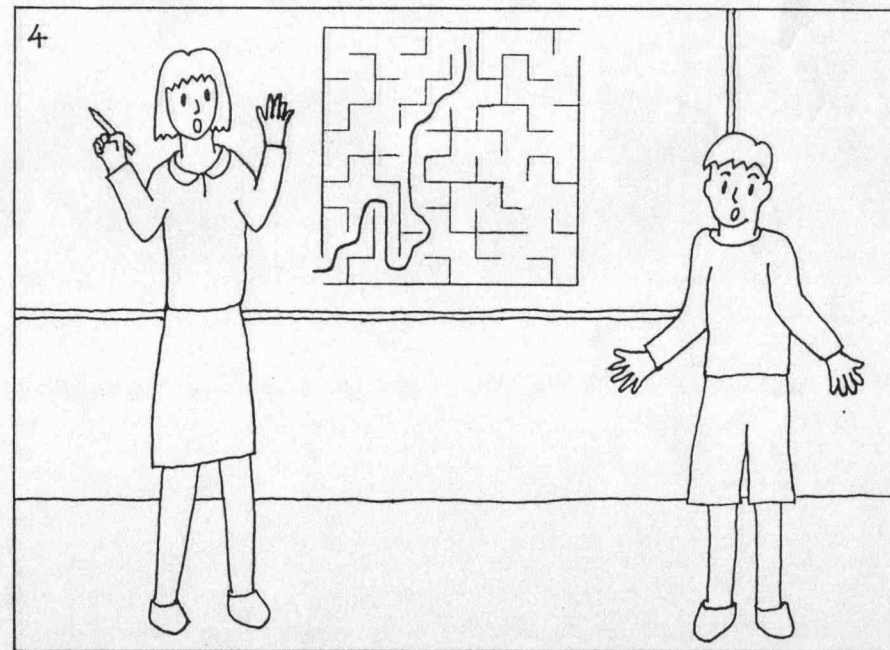
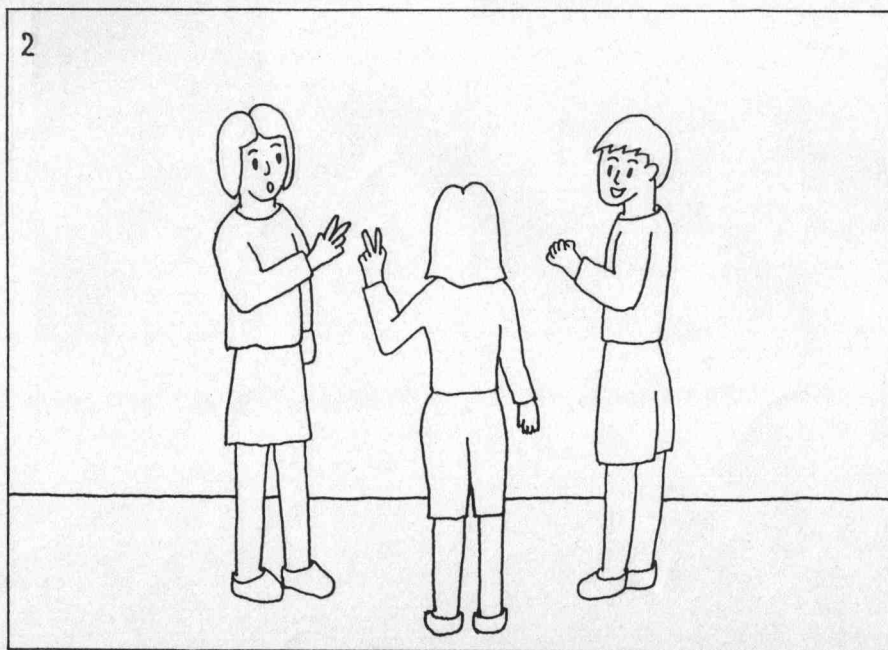
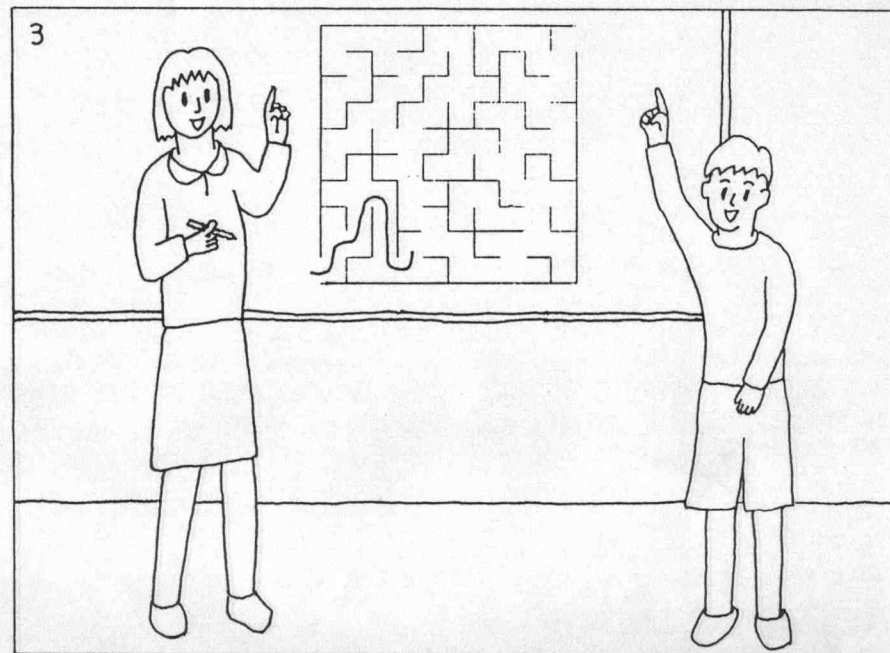
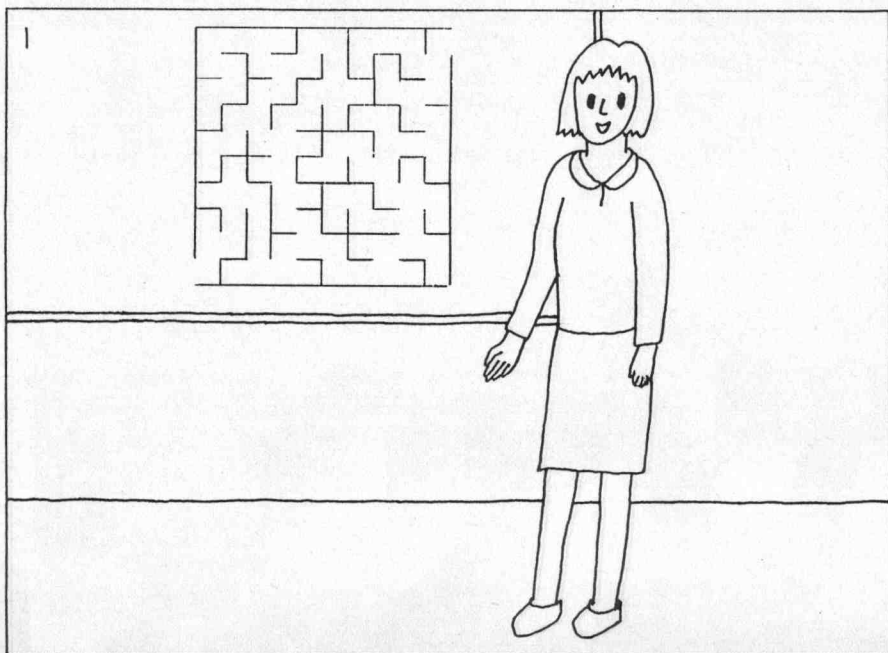
例えば、Aグループは△、Bグループは☆、のように探すものを決めておいて一斉にスタートするようにします。指導助手は児童に“Three stars.” “Under a tree.”のように宝の数と隠し場所のヒントを言います。この時に、児童の実態に合った英語の表現を使うことが大切です。金曜英語ではOn/In/Underを強調した表現にしてみました。Rest room/Gym/Libraryなどの場所の表現を中心にした活動にすることもできます。

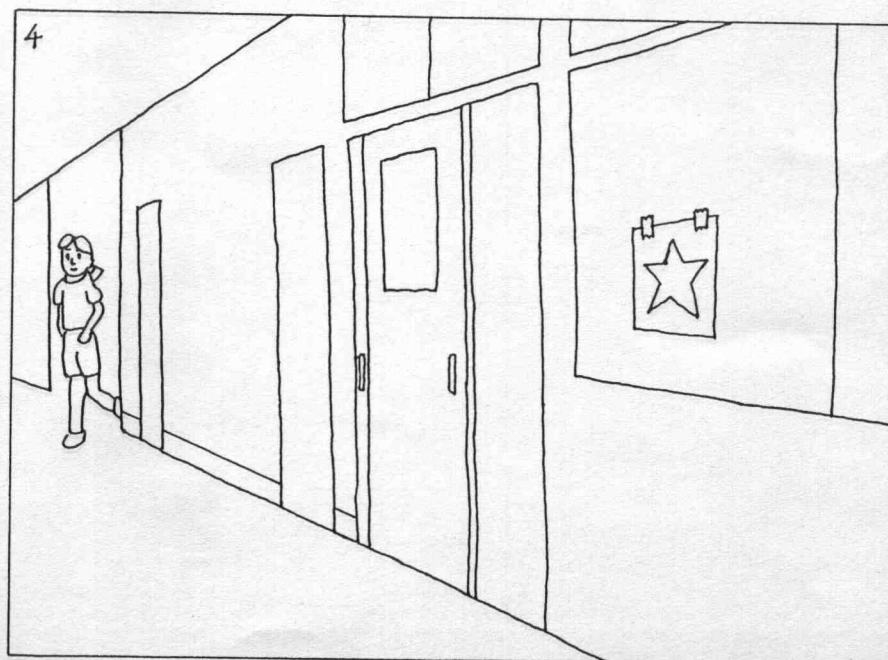
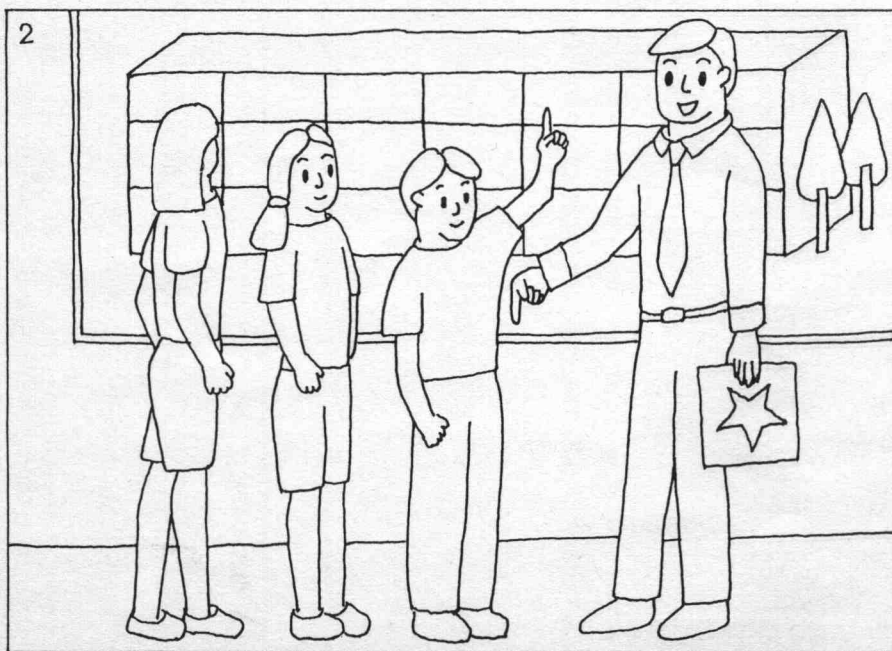
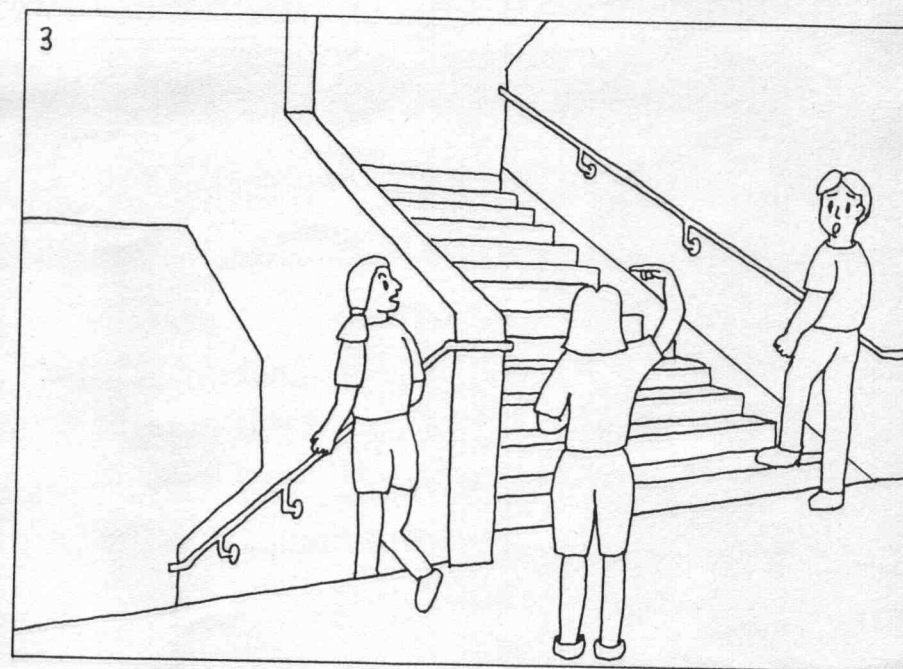
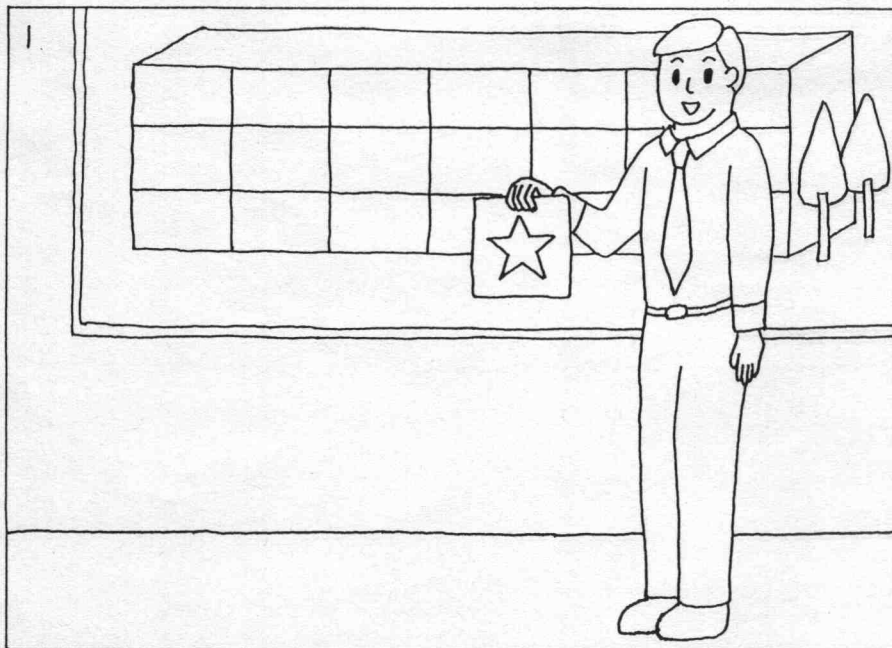
## 指導助手との話題にどうぞ

下の絵は Watch out!（気をつけて）を表わすために描いたものです。これをあるALTに見せたところ、「転んでしまった人に Watch out. とは言わない」と怪訝な顔をされてしまいました。なるほどそうだと思いながらも、そんなに不自然だろうかという気持ちが出てなりません。

よろしかったら、みなさんの学校の指導助手との話題にどうぞ・・・。







# きょうと英語フロンティア・キッズ NEWS

## 活動例(プレート・ランチ)

小学校英語では食事や料理を扱った活動がよく行われますが、ここでは「要求や欲求を表現する」ことを目標にした活動例を紹介します。

中学校であれば、まず生徒に “I want ...” や “I’d like to ...” などの表現を教えて、次に会話練習やゲームという授業の流れになるかもしれません。小学校の場合は、中央教育審議会の答申に記されている「文法や単語の知識等を教え込むような方法は避けるように留意する必要がある」ことをふまえますと、「今日は “I want ...” の言い方を覚えなさい」というような指導は望ましくありません。指導助手との活動を通して、児童が “I want ...” や “Please, ...” などの

英語表現を拾い集めることができるようにしたいものです。

資料(4コマの絵図)に示しましたように、まず児童にプレート・ランチの見本を見せましょう。きっと「お子様ランチ!!」の歓声があがることでしょう。

教室に長机を2脚ほど運んできて、料理を受け取るカウンターに見立てましょう。

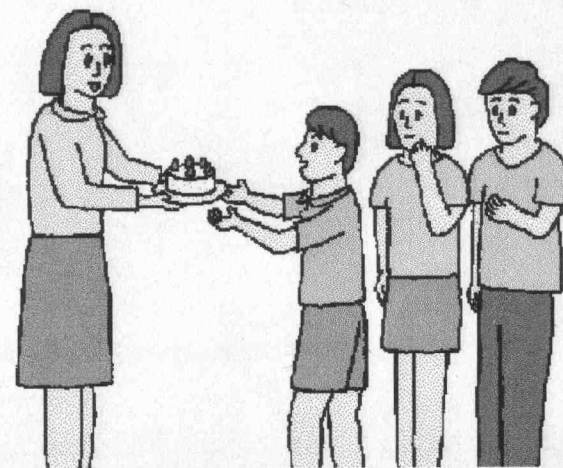
児童は自分の欲しい料理（紙に印刷したもの）を英語で伝えなくてはなりませんが、どう表現すれば良いのかわかりませんので、次のような反応が予想されます。

- ①欲しい料理を指さす。
- ②確認するとYes./No.を言う。
- ③指さしながら“Please.”と言う。
- ④“xxx, please.”と言う。

児童が動作で表現できるようでしたら、別の料理を指さして②のように “No.” が言

えるようにしてみましょう。③は親が子に言葉を教える時のように “Please.” を繰り返すのがよいでしょう。

ある学校でこの活動をした時、何名かの児童が「飲み物が欲しいね」とつぶやいていたそうです。絵図の4コマ目のように、自ら進んで伝えに行っただろうと想像しています。



## 活動例（待ち合わせ）

絵図では腕時計を持っていますが、学校にあるストップ・ウォッチを使うとよいでしょう。

グループごとに待ち合わせの時刻と場所を指定します。待っている間に児童が退屈しないように、指導助手と会った時にどう言えばよいのかグループで考えておくように助言しましょう。また、教室にもどったら何をするのか指示しておくことも大切です。例えば、待ち合わせた場所を地図に描くとか、指導助手の言ったことを思い出すとか、その日の活動を振り返ることが大切だと思われます。

この活動は児童の実態に応じて、時刻と場所の他にもいろいろな指示を加えることができます。次の例を参考にしてください。

- ・ 福沢諭吉の写真が載っている本を探し

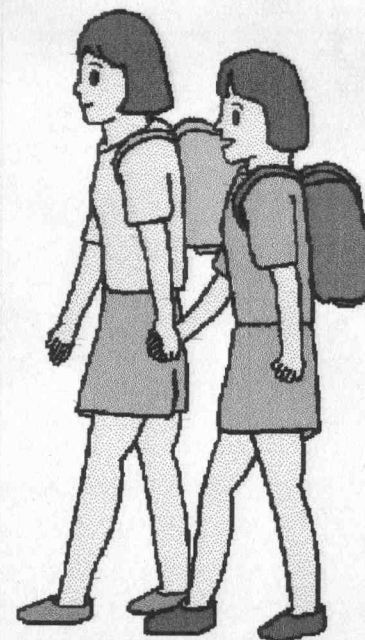
なさい。午後2時15分に図書室で会いましょう。

- ・ 1階から3階までの階段の数を数えなさい。10時55分に西階段の出入口で待っていないさい。
- ・ 学校で一番高い木を探しなさい。その木の下へ、3時ちょうどに行きます。

これらの指示を聞き取るのはかなり難しいことですから、無理をすると「何を言うたはるのか全然わからへん」という結果になってしまいます。これとは別の活動でしたが、ある指導助手は“Gym”（体育館）という言葉伝えるだけのために、体育館シューズや屋内用ボールやいろいろな用具を準備していました。写真や実物など、指示の内容に合わせて、英語を理解する手掛かりを用意しておくことが大切です。

また、この活動では時刻や場所の表現が重視されがちですが、児童には「待つ」や「会う」などを理解することのほうが難しいものです。「待つ」と「会う」を表現した4コマの絵図を作りましたので、活用していただければと思います。

最後に、留意点としては指導助手に校内を案内しておくこと、全教職員に活動内容を知らせておくこと、などが必要でしょう。



「約束の時刻を5分過ぎても会えなかったら、教室に戻りなさい」などの注意は日本語で確実に伝えておかなければなりません。

